

おおいたがわ  
大分川水系大分川ダム試験湛水中の効果（平成30年7月豪雨）

- 梅雨前線に伴う豪雨により、大分川ダム上流域においては、192mm(7月6日3時～7日9時)の累加降雨を観測しました。
- 大分川ダムは、現在、本格運用前の試験湛水中ですが、最大179.8万m<sup>3</sup>(25mプール約4994杯分)の洪水を一時的に貯留し、ダム下流の七瀬川の水位低減を図りました。
- 大分川ダムの洪水貯留がなければ、七瀬川の水位は水防団待機水位を超過していたと推定されます。
- 大分川ダムの完成に向け、引き続き試験湛水を着実に実施していきます。

7月3日(EL.176.4m)



7月7日(EL.179.22m)

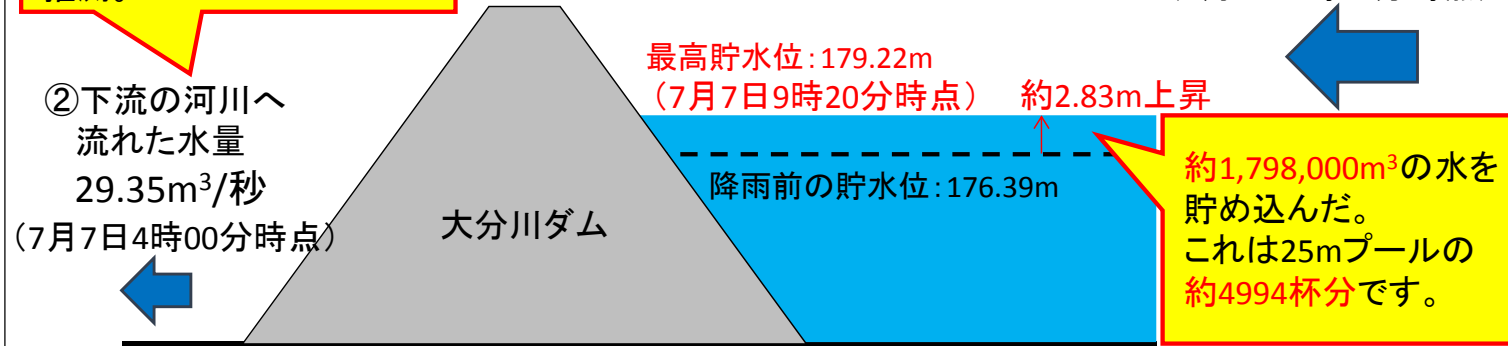


◆大分川ダムの状況

約64.51m<sup>3</sup>/秒(=①-②)  
少なくなって、流れていたと推測。

②下流の河川へ  
流れた水量  
29.35m<sup>3</sup>/秒  
(7月7日4時00分時点)

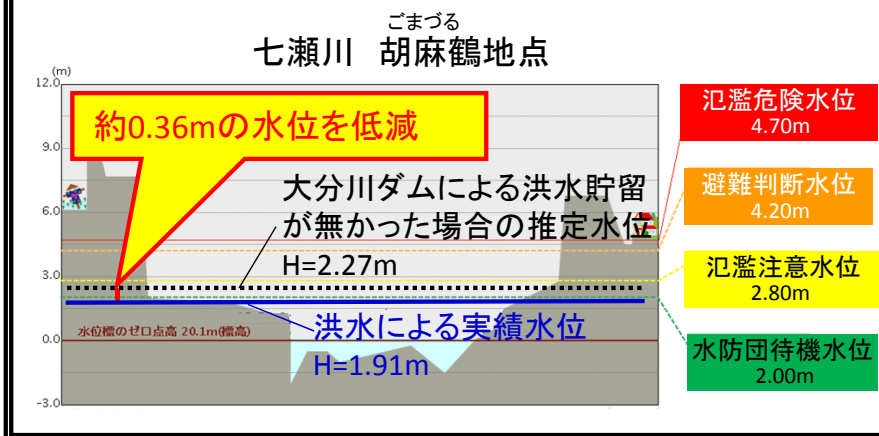
①大分川ダムへ流れてきた水量  
93.86m<sup>3</sup>/秒  
(7月7日4時00分時点)



今市雨量観測所(累加雨量): 192mm(7/6 3時～7/7 9時まで)



大分川流域図



※本資料の数値は速報値であるため、今後の調査で変わる可能性があります。